

患者さんへ

予定手術患者に対する手術室担当薬剤師の取り組みの変化が 術後悪心嘔吐の発現率に及ぼす影響の比較検討調査

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

1 研究の対象	2023年9月1日～2024年5月31日の間に、当院入院支援室にて手術室担当薬剤師による術前面談を受けた患者さん
2 研究目的・方法	当院では、麻酔後の特徴的な合併症である術後の悪心嘔吐の発症低減のために、手術室担当薬剤師が事前に面談を行い、リスクなどを把握した上で安全に手術を行えるようにする取り組みを行ってきました。その取り組みについて、詳細に検討を行い、当院における成果や課題を明らかにすることを目的としています。 通常診療で得られた臨床情報を診療録や薬剤師業務記録より使用させていただきます。 研究の期間: 施設院長許可(2025年2月)後～2026年10月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	<ul style="list-style-type: none">・ 研究対象者背景: 年齢、性別、入院支援室での術前面談時の患者情報など・ 薬歴関連情報: 薬歴、副作用歴、既往歴、手術室担当薬剤師面談の有無と対象者、常用薬鑑別の有無、薬剤情報源など・ 手術関連情報: 手術記録、麻酔記録、看護記録による手術中の経過、手術室担当薬剤師による手術前薬歴、アレルギー歴、術後悪心嘔吐リスクの把握と確認、麻酔方式の変更の有無、手術室にて使用した術後悪心嘔吐予防薬の使用状況、手術室スタッフへの情報提供内容と共有事項の記録の有無、情報提供書、診療情報提供書等)、持参薬鑑別報告書上の[特記事項]など・ 術後悪心嘔吐発症の有無関連情報: 診療録より「気持ち悪い」、「吐いた」などの患者さんの自覚的な訴えの有無、患者評価に基づく「吐き気/吐気あり」、「嘔吐あり」、「吐物あり」などの記載有無、術後24時間以内の制吐剤使用状況など・ 麻酔科医、手術室看護師を対象としたアンケート調査結果

5 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 研究責任者：札幌東徳洲会病院 薬剤部・副主任 須賀 明輝 住所：札幌市東区北 33 条東 14 丁目 3 番 1 号 電話番号：011-722-1110（代表）</p>

2026 年 2 月 5 日作成(第 2 版)